

## 第6部 2022年度の環境に関する取組みについて

### 豊岡市環境審議会の意見 (今後の取組みに向けて)

#### ■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、第2次環境基本計画の「目標とする姿」の体系に合わせ、環境審議会からの意見や要望をまとめています。発行時期の都合上、本意見は2年後の施策に反映されます。

取組みを期待する主体を「市」「市民」「事業者」で分け、記号を付けています。また、市については、主な関係課を載せています。

記号： 市 市民 事業者

新規意見については記号を付けています。

記号： 新規

※一部 2023年度の情勢を受けてまとめたものを含みます。

## (1) 「目標とする姿」ごとの取組みについて

### 目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

**新規**

針葉樹と広葉樹が混在する針広混交林を整備することは、下層植生が衰退した人工林と比較し、生物多様性の向上のほか、防災効果が期待できます。将来的に間伐等の作業も減少し、省力的に整備ができる環境保全型の森林を整備していくことが求められます。

**市 事業者**

森林環境譲与税を活用し、建築物への地場産材活用など、民間の林業ビジネスに付加価値を生む取組みを進めてください。また、長期的な視点で林業従事者の減少による人手不足を補う方法として、自伐型林業等の新たな林業経営体への支援を模索していくことも求められます。そのためにはイメージアップ戦略も重要です。

**市 事業者**

放棄竹林等の増加により、里山が荒廃しています。市民が竹林問題を知り、里山整備や竹の利活用を考える機会（ワークショップなど）をつくるとともに、情報提供や支援制度を充実させてください。

**市 市民 事業者**

上記の取組みを推進するには、森林所有者を把握し、協力を求めていくことが必要です。民有林での森林保全が進むよう、森林所有者の把握と、森林保全に対する啓発に努めてください。

**市 市民 事業者**

【主な関係課】

農林水産課  
コウノトリ共生課

農林水産課  
環境経済課

農林水産課

地籍調査課  
農林水産課

### 目標像②里山が様々に利用され、関わる人が増えています

**新規**

農林業のみならず、有害鳥獣により家庭菜園が被害にあうと、耕作をやめてしまう人もいます。耕作放棄地増加防止の観点からも、家庭でできる有害鳥獣対策の研究や普及が求められます。また人里近くに野生動物が増えていることから、寄生するマダニやヤマビルによる二次被害もあるため、対策の周知を継続してください。

**市 市民 事業者**

有害鳥獣駆除後の適切な処理が困難な課題となっています。駆除後の処理や加工利用をおこなう施設の整備への支援が求められます。あわせて、事業者による肉や皮の活用（食肉、ペットフードなど）、市民へのジビエ料理を普及する機会の創出や、学校給食での利用など、利活用に向けた具体的な研究に着手してください。

**市 市民 事業者**

【主な関係課】

農林水産課  
健康増進課

農林水産課  
環境経済課  
文化・スポーツ振興課  
教育総務課

## 目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

新規

農林水産省が主導する「地域計画」では、農地の保全のほか、耕作放棄地を含めた農地の利活用を地域ぐるみで考える必要があります。農業関係者だけでなく、地域住民と一緒にってつくる地域計画の策定にむけたサポート体制の充実が求められます。

市 市民 事業者

【地域計画】地域農業の維持利用を集落単位で考える将来計画のこと。2024年度中の策定が義務付けられています。

耕作放棄地について、短期間だけ耕作を引き受けてくれる事業者との連携や、兼業農家への支援拡充、耕作放棄地の再開拓への支援等、新たな取組みが求められます。

市 市民 事業者

学校給食での地場産物や旬菜の利用がさらに進むことを期待します。地場での旬菜旬消の取組みは、食文化の伝統継承や、野菜の育成時や輸送時のCO<sub>2</sub>排出量削減にもつながります。事業者においても、積極的に地場産物を取り扱い、市民が積極的に購入、活用できるような仕組みづくりをしてください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

農業委員会  
農林水産課  
地域づくり課

参考：農林水産省 HP  
[https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/chiiki\\_keikaku.html](https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/chiiki_keikaku.html)

農業委員会  
農林水産課

農林水産課  
教育総務課  
環境経済課  
コウノトリ共生課  
文化・スポーツ推進課

## 目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

新規

近年慣行水田を中心に使用されているプラスチックの殻で被覆された肥料（一発肥料）が水系へ流出し、マイクロプラスチックの発生に繋がっています。水田の代かき後は特に流出が多く、流出防止策を講じなければ豊岡市においても推定 10t 以上のマイクロプラスチックが水系に流出する可能性があります。耕作者に問題意識の醸成を図るため、市や事業者による流出させない取組みの啓発、代替肥料の研究開発が望まれます。また、そうした肥料を使用しないという面からも、コウノトリ育む農法へのさらなる誘導が望まれます。

市 市民 事業者

【被覆肥料使用量の算出方法】

- ①豊岡市内の慣行水田 1,737ha 全てで被覆肥料が使用されていると仮定。
  - ②被覆肥料は 10a につき 20kg (1袋) 施用とする。
  - ③肥料 1 粒中の被覆プラスチックの重量比を 0.05 とする。
- ▶約 347t の肥料が使用され、約 17t の廃プラスチックが発生する※推定。  
※太陽光等による分解は加味しない場合。

海岸や河川の清掃活動が継続的に行われるよう、さらなる普及啓発に期待します。漂着ごみは、河川上流部、近隣自治体、海外からも流れ着いています。啓発範囲を広げ、市民の他にもブルーツーリズムにボランティア（ビーチ清掃等）を組み込むなど、市外の人たちも関心を持って清掃活動等に関われるような取組みが求められま

【主な関係課】

農林水産課  
コウノトリ共生課  
生活環境課

生活環境課  
観光政策課

す。また、事業者は大雨等の際に資材や廃棄物が流出しないように適切な保管、処理を行うようにしてください。

市 市民 事業者

【ブルーツーリズム】

島や沿岸部の漁村に滞在し、魅力的で充実した海辺での生活体験を通じて、心と体をリフレッシュさせる余暇活動の総称

観光地周辺でのごみのポイ捨て禁止や分別マナーについて、観光客にも啓発を強めることが求められます。

市 市民 事業者

生活環境課  
観光政策課

## 目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

新規

コウノトリは現在12府県で繁殖し、今後も全国的にますます数が増加していくことが見込まれます。これまでの野生復帰の取り組みが挙げた成果を市民全員で再認識する一方で、少数を保護し共生するという観点から、次なる共生のステップに移るイメージを共有していくことが求められます。

市 市民 事業者

【主な関係課】

コウノトリ共生課  
経営企画課

新規

自然生態系について、紙面やデジタルでの情報共有は大事ですが、標本や剥製など実物の確認記録も非常に重要です。現在、本市には標本等を収蔵保管する専門施設がありませんが、廃校を活用した施設整備をするなどし、後世にこれまでの豊岡の自然史を引き継いでいくことが求められます。

市 市民

コウノトリ共生課  
文化・スポーツ振興課  
資産活用課

国内外のコウノトリ繁殖地との情報交換や連携を進め、市内でのコウノトリ野生復帰の取り組みにフィードバックしてください。また、コウノトリの羽数が年々増加するにつれ、人工物との衝突事故や電柱への営巣などの事例も増加しています。巣塔近くでの注意看板の設置や、農業用の防獣ネットの設置の仕方の周知等を引き続き行ってください。加えて、市内外での事故やケガを目撃した際の対応の周知を求めます。

市 市民

コウノトリ共生課  
農林水産課  
都市整備課  
建設課

外来種問題について市民に正しく情報発信し、戦略的な対策を進めてください。また市が管理する公園等の施設や道路、各庁舎は市民の目につきやすいため、規範となるべく積極的な外来種の駆除を求めます。

市 市民

コウノトリ共生課  
農林水産課  
都市整備課  
建設課  
各振興局地域振興課

市内外からの環境保全ボランティアを増やすため、地元の受け入れ体制の整備や支援、情報の発信に努めてください。また、引き続き、市民や事業者が湿地保全などの「小さな自然再生」に取り組むための支援や啓発に努めてください。

市 市民 事業者

コウノトリ共生課  
地域づくり課

## 目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

**新規**

子どもたちが地域を学ぶ機会については、学校での学習や行事の一環で参加している人が多いようです。義務的に学ばせるのではなく、自ら興味を持ち、知ってもらい、活動してもらうことが重要です。地域のことを知るモチベーションを高めるためにも、子どもたちが楽しんで取り組める機会の創出を望みます。

市 市民

市内外の様々な人々が地域の伝統行事や文化を知り、交流を深める機会を持つことで、伝統を守りながら、新しい伝統が作られていくことを期待します。

市 市民 事業者

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの行事や祭りが中止となり、行事の再開が危ぶまれるものもあります。新しい形での開催も含め、市・地域住民・事業者が一体となって知恵を出し合うことが求められます。

市 市民 事業者

【主な関係課】

地域づくり課  
学校教育課  
幼児育成課

文化・スポーツ振興課  
環境経済課  
観光政策課

文化・スポーツ振興課  
地域づくり課  
各振興局地域振興課

## 目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

**新規**

豊岡出身の子どもたちがメッセンジャーとして豊岡の良さを発信できる風土を作っていくことで、活動の価値も高まり、関心の薄い子どもたちにも興味を持ってもらいやすくなります。発信先の市内外を問わず、豊岡の良さを情報発信する際の協力や機会の創出等の支援が行われることを期待します。

市 市民

ふるさと学習における「地域の生きものとふれあう体験学習」が実施する意義を理解し、支援していくことが必要です。そうした学習の場をつくるためにも、引き続き水田ビオトープや大規模湿地等の維持、活用に取り組みながら、講師派遣等の支援も充実させてください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

コウノトリ共生課  
秘書広報課  
学校教育課

コウノトリ共生課  
学校教育課

## 目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

**新規**

給水スポットの設置について使用状況や利用者の感想等の調査をし、情報発信を行うことで、公共施設だけでなく、事業所等への給水スポットの設置が進み、マイボトルの普及が進むことを期待します。

市 市民 事業者

【主な関係課】

生活環境課

引き続きごみ減量化の普及啓発に努め、ごみ搬入量や計画収集量が減少するようにしてください。地域の中でごみ出しが困難な方がおられる場合には、介助者、近隣住民との地域での共助の仕組みづくりが求められます。

また、不要物を地域のバザーで販売したり、他市のように粗大ごみとして出されたがまだ使えるものをリサイクル品として販売するなど、ごみを出さない取組みの推進も期待します。

市 市民 事業者

「豊岡市プラスチックごみ削減対策実行計画」の対策状況の進捗の周知とともに、市が使い捨てプラスチック削減の規範となる取組みを推進し、市民や事業者の取組みを促す支援や体制作りが求められます。

市 市民 事業者

## 目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

新規

車の相乗りもCO<sub>2</sub>排出量の削減に効果があります。高齢化が進む地域などでは相乗りタクシー等の移動手段が確立されることにより、省エネ、交通弱者の減少につながるため、市や事業者による支援を期待します。

市 市民 事業者

新規

ノーマイカーデーなど市の施策として行っているCO<sub>2</sub>削減につながる情報が市民、事業者向けにわかりやすくまとめられ、学校の授業等にも活用されることで、広い世代でさらなる環境意識の醸成が進み、脱炭素につながる行動が増えることを期待します。

また、さらなる利用者の増加と取組みの周知を進めるために、イベントに公共交通で来場した場合に特典を付与する、コミュニティで公共交通を活用したイベントを企画するなど、利用者が楽しみをもって利用できる取組みの推進を期待します。

市 市民 事業者

公共交通機関の利用は、CO<sub>2</sub>排出量の削減に加えて、交通インフラの維持にもつながります。通勤で車の代わりに電車やバスといった公共交通機関の利用など、移動方法を考える啓発を強め、まずは自身でできる省エネ行動を実践しつつ、それらコミュニティや個人間同士で様々に広げていくことが重要です。

市 市民 事業者

再生可能エネルギーの導入については、山林を切り開いてのメガソーラーの導入など環境破壊を伴うものではなく、既存の建造物を利用した太陽光発電等の環境負荷や景観へ配慮した再エネ導入が推進されることを求めます。

市 市民 事業者

生活環境課  
高年介護課  
地域づくり課

生活環境課

【主な関係課】

コウノトリ共生課  
都市整備課

コウノトリ共生課  
都市整備課  
学校教育課  
地域づくり課

コウノトリ共生課  
都市整備課

コウノトリ共生課

## 目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

**新規**

湿地整備等で受け入れている市外からのボランティアツアーを、豊岡演劇祭等のイベントでも受け入れを行う事で、豊岡の取組みをさらに深く知ってもらい、交流が深まることを期待します。

市 市民

【主な関係課】  
観光政策課

環境経済認定事業に認定されるメリットとして、共同プロモーションの創出や環境イベントへの出店等の後押しといった支援に取り組むことを期待します。

市 事業者

環境経済課

環境経済認定事業に認定されるための支援策も充実されることを期待します。

市 市民

環境経済課

## (2) まとめ

第2次豊岡市環境基本計画の推進6年目にあたる2022年度の取組みについての評価は、「よくがんばりました」が1項目(目標像③)、「この調子でがんばろう」が9項目(目標像①②④⑤⑥⑦⑧⑨⑩)という結果でした。特筆すべきは「もっとがんばろう」に該当する項目がなかったことです。これは、第2次環境基本計画がスタートして以来はじめてのことで、豊岡市のさまざまな環境にかかわる諸課題をめぐって市民・事業者・市の取組みが着実に進んでいるといえるでしょう。

目標像①は、2021年度「もっとがんばろう」でしたが、2023年2月に策定された「豊岡市森林・林業ビジョン」によって持続可能で豊かな森林づくりに向けた具体的な取組みの議論が活発化していること、森林環境譲与税が森林整備のために計画的に利用されていることなどの理由で「この調子でがんばろう」へ評価を上げました。これらを念頭に環境審議会としては、生物多様性の向上や防災効果が期待できる針葉樹と広葉樹が混在する針広混交林の整備などを提案しています。

目標像③が「よくがんばりました」評価となったのは、環境創造型農業におけるコウノトリ育む農法の作付面積および割合が増加したこと、豊岡農業スクールの卒業生が10年目にして25人(独立自営就農18名、雇用就農7名)をこえるなど新規就農者が増えたことなどが、その理由です。環境審議会としては、こうした豊岡での農業の動向と農林水産省の政策などをふまえて、農地の利活用の計画を農業関係者と地域住民が一緒になって地域ぐるみで策定することを支える体制の充実を提案しています。

今回から本報告書の第6部では、環境審議会からの新たな意見や提案に「新規」という目印をつけました。環境審議会の意見のなかには、社会の動きや行政の施策などを受けて新たに取り組むべき事柄と、以前から取り組んではいるもののすぐには解決が難しく持続的な活動が求められる事柄が含まれています。前者については、環境審議会からの新たな問題提起として、後者については、対応の進捗状況を確認するという意味合いをこめて、両者が一目で把握できるように工夫をしました。環境審議会は、つねに両者を見据えていきたいと考えています。

2024年3月

豊岡市環境審議会 会長 山室 敦嗣  
副会長 雀部 真理  
委員 青柳 順子、安藤有公子、木築 基弘  
黒田 和真、田原 美穂、永田 兼彦  
西垣由佳子、野世 英子、洞田美津子  
増原 直樹、水嶋 弘三、村田美津子  
山下 正明



**【お願い】**

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、皆様のご意見・ご感想や、ご提案・取組み事例の情報などをお寄せください。

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

住 所:〒668-8666 豊岡市中央町2番4号

電 話 番 号:21-9017(直)

FAX 番 号:24-7801

E - m a i l:kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索: